

日本政府、私立アンドレス・ベージョ・カトリック大学サンタ・イネス
医療センターを支援

2018年1月12日、在ベネズエラ日本国大使館に於いて、岡田憲治
在ベネズエラ・ボリバル共和国日本国大使と、スカーレット・サラサール
サンタ・イネス会長との間で、同協会の神経内科医療設備強化計画の為の、日本
政府の草の根・人間の安全の為の無償資金協力を通じた贈与契約の署名式が行
われた。この贈与の合計金額は、50,725米ドルで、デジタル脳波計とス
パイク検出プログラムの購入に充てられる予定である。

この最新の医療機材は、私立アンドレス・ベージョ・カトリック大学サン
タ・イネス健康センターが、てんかん、脳梗塞などの神経系疾患を持つ患者
に対する一般的な診断オリエンテーションと病理学的な診断を許容し、首都南
西部地域のアンティマノ、カリクアオ、ラ・ベガ、マカラオ及びエル・パライ
ソ地区の経済的に恵まれない住民の健康保全に寄与する事となる。日本政府は、
2001年に同医療センターに対し、医療設備改善計画のために70,079
米ドルの資金供与を行っている。

日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力は、基本的なヘルスケ
アー、基礎教育及び貧困緩和、その他の分野における開発プロジェクトを支援
する目的を持った地方公共団体、非政府組織(NGO)、教育機関及び医療機関等
に指向けられた無償資金協力である。日本政府は、1999年よりこの協力を
続けてきており、今日までにベネズエラの54の団体及び組織等がこの協力を
受け、その金額は3.7百万ドル以上に達している。



(了)